

C-47 長袖パフスリーブのカフス丈の研究—Ⅲ. ギャザー法とタック法の差異—  
昭和女大短大 権名米子 ○菊地美知子

目的 前報第一回、第二回の実験においてギャザーを入れた場合のカフス丈は、布の厚さ、ギャザー分量、縫い方に影響されることが明確となった。今回は更にギャザーを入れた場合（ギャザー法）とタックを入れた場合（タック法）のカフス丈に及ぼす影響について比較検討した。

方法 実験材料、裁断、縫製条件は前回と同様。製図については、袖口に入れるギャザー分量、タック分量を15cmとし、他は前回と同様。ギャザー、タックの縫い方は、前回の実験でカフス丈に最も影響の少なかったしるも/本どりの方法を用いた。

結果 (1) 袖口にギャザー、タックを入れた後の布の厚さは、ギャザー法がタック法よりすべての布において大となっている。分散分析の結果、ギャザー、タック間、各布地間にはそれぞれ/%水準で有意差が認められた。(2) 原布の厚さとギャザー、タック後の厚さの関係をみると、ギャザー法では、ベンベルグは4.5倍で厚さの増加が最も大であるが、クレープ、サッカーは2.5倍で少なかった。タック法は、ベンベルグが3.1倍で最も大で、クレープ、サッカーは2.0倍と少なかった。(3) ギャザー、タック後の厚さと、剛軟度の相関は、経方向はギャザー法もタック法も0.8以上で高く、緯方向は低値であった。又防（め）度との相関は、経・緯方向ともに両者は低値であった。(4) 着用時カフス丈必要量は、ギャザー法とタック法とでは、ギャザーの方がすべての布において大で、両者間には/%水準で有意差が認められた。(5) 算出法によるカフス丈必要量は、ギャザー法、タック法ともに着用時カフス丈必要量とほぼ一致した。